

# ハリー・ポッターと謎のスクリーニング

東京医療保健大学： 坂井美月、 佐藤祐華

スクリーニングする時 → 診断の正確さが大きく関わってくる。

研究の参加者に対して、診断と真の状態のわかる検査の両方を実施する研究を行う。

その診断の正確さをどのようにして評価するのか。

		真の状態		計
		陽性	陰性	
診 断	陽性	a	b	a+b
	陰性	c	d	c+d
計		a+c	b+d	N

## ★診断の正確さを表す指標★

**感度** : 真に陽性(+)の人のうちのどれだけを正しく陽性と判定できるか  
=  $a/a+c$  (×100)

**特異度** : 真に陰性(-)に人のうちどれだけを正しく陰性と判定できるか  
=  $b/b+d$  (×100)

**偽陽性率** : 真に陰性の人を誤って陽性と判定してしまう割合  
=  $b/b+d$  (×100) = 1-特異度

**偽陰性率** : 真に陽性の人を誤って陰性と判定してしまう割合  
=  $c/a+c$  (×100) = 1-感度

これらの話を踏まえた上で!!  
あなたが実際に診断を受けたら

もし検査で陽性と診断された場合、何を気にしますか？

陽性と判定された人が本当に陽性である確率が気になるのでは??

## ★診断結果を受け取った人が気にする指標★

陽性と診断された人が本当に陽性である割合を  
**陽性的中率** =  $a/(a+b)$  といいます。

反対に  
陰性と診断された人が本当に陰性である割合を  
**陰性的中率** =  $d/(c+d)$  といいます。

※ しかし、陽性的中率と陰性的中率はそれぞれ診断の正確さを表すものではなく、診断の正確さを示す場合には感度や特異度で示す。

診断において、感度と特異度をペアで考えていくことが必須となりますが、1つの検査においては、一方が高ければ他方は低くなってしまいう性質があるので、診断の使用目的に応じて、両者のバランスを考慮しながら、「陽性」と「陰性」を分ける閾値を決めます。

